

学校経営推進費 事業計画書

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立鳳高等学校
取り組む課題	A グローバル人材の育成
評価指標	・プレゼンテーション・スピーチ・ディベート・海外交流などを行い、話す力（やりとり・発表）を伸ばす ・英語力の育成とともにグローバルな感覚を身に着ける環境をつくり、自主性や創造性を養う ・実用英語検定準2級以上合格者の割合 ・英検2次 Speaking CEFR B1、A2 の割合増加
計画名	鳳で校内留学 ～「さかい」で「せかい」とつながる～

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画 の中期的目標	1 夢や目標に向けて、進路実現に取り組む生徒の育成 「自分ごと」として物事を捉え、様々な課題に向き合い、将来の自分を見据えて粘り強く取り組んでいく姿勢を育成する。 （1）生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。 2 確かな学力の育成 視野を大きく持って、様々な課題に取り組むために知識・技能とともに常に改善する意識を育成する。 （1）学びの質の向上を行い、知識・技能の確実な定着を行う。 （3）知識・技能に偏らず、課題解決に向けて創意工夫する意識を持続する心を育てる。
	① 思考力やコミュニケーション力の育成 「英語エキスパートクラス」など日常から、英語に触れるとともに国際的な文化を感じる環境を作り、単に英語力だけではなくグローバルな視点を養うことにより将来のキャリアに対する意識を醸成し結果に結び付ける。 ② ラーニングコモンズを中核とした多様なコミュニケーション能力の育成 教科に偏らず、ラーニングコモンズを中核とした海外とのコミュニケーション、Society5.0を見越したデジタルとの融合などを多角的に取り入れる中、非日常空間とリアルな実物の接点を判断できる人材を育成する。 ③ 教科横断的な学びによる想像力・対応力・多様性の育成 単位制高校の利点を活かし、多様な学校設定科目を開設し、グローバルな視点を起点としてSDGsの理念を踏まえた国際的に通用する生徒を育成し、自分の夢・目標を明確に語れる人物を増やす。
取組みの概要	整備する設備・物品 ・多様な学習形態を作れる台形デスクとチェア ・デジタルとアナログを融合したグループワークを可能にする縦型ホワイトボードおよびプロジェクタ ・海外を含めた遠隔地との交流を行うためのWEBカメラ ・多様な発想を実現する大判プリンター

取組内容	前年度	・ 2 年生全員参加によるスピーチコンテストを実施。1 年生は 2 年生の代表発表を見学。 ・ LL 教室に英語学習に適した教材等の配置を行い、生徒が自らのレベルにあった教材を選択して主体的な学習。 ・ NET と協働によるオールイングリッシュの授業展開。 ・ 定期考査 5 回→4 回。パフォーマンス課題など多様な学びの実現へ。 ・ オーストラリア国際交流研修の実施
	初年度	・ 英語エキスパート教員による学校設定科目の準備（4 月～） ・ 英語エキスパート教員が担任を務める「英語エキスパートクラス」の募集（7 月～） ・ スピーチコンテストの充実と拡大。大学等との連携。先進校視察等。（8 月～） ・ LL 教室の整備を行い、ラーニングコモンズとして活用できる施設の整備。（10 月～） ・ 総合的な探究の充実によるポスターセッションの開始。（10 月）
	2 年め	・ 「英語エキスパートクラス」の運用（4 月～） ・ 学校設定科目の実施。大学等との連携の強化。海外との交流（4 月～） ・ LL 教室を教科横断的な学びの場としてコミュニケーション能力育成の場としての活用。（4 月～） ・ ポスターセッション（9 月）、スピーチコンテストの充実（2 月）、外部の発表会への参加（通年）。
	3 年め	・ 「英語エキスパートクラス」の成果の振り返り。（12 月） ・ 学校設定科目の取組みの効果検証。（12 月） ・ 教科横断的な学びの効果検証。（12 月） ・ 取り組みの成果をとりまとめ、外部への発信。（3 月）
	取組みの 主担・実 施者	主担：「将来構想委員会」が全体を調整しながら、「カリキュラムマネジメント委員会」「学力向上委員会」「探究活動委員会」「国際交流委員会」などの取り組みを調整し推進する。 実施者：全教員
成果の検証方法と評価指標	初年度	・ 有志（AUS 国際研修参加者など）による LL 教室での海外との交流及びスピーチコンテストでの報告。 ・ 対象者へのアンケートの実施。肯定的回答 80%以上。 ・ LL 教室施設、英語エキスパート教員、NET を活用し、希望者に英検リスニング・スピーキング講習。 ・ 1 月英検（校内実施）2 級受験者 2 年生 45%以上、1 年生 20%以上。 ・ 実用英語検定準 2 級以上合格者の割合 25%、内 合格者の 2 次 Speaking CEFR B1、A2 の割合分析。
	2 年め	・ 「英語エキスパートクラス」生徒による海外とのオンライン交流 2 回以上。スピーチコンテストでの報告。 ・ 学校設定科目でのディベートを実施、代表者による他校との交流。 ・ 探究発表会で「英語エキスパートクラス」による English Section でのポスターセッション参加。 ・ 対象者へのアンケートの実施。肯定的回答 85%以上。 ・ LL 教室施設、英語エキスパート教員、NET を活用した、英検リスニング・スピーキング講習 5 回以上。 ・ 1 月英検（校内実施）2 級受験者 2 年生 50%以上、1 年生 25%以上。

		・ 実用英語検定準 2 級以上合格者の割合 30%、内 合格者の 2 次 Speaking CEFR B1、A2 の割合 前年度より増加。
	3 年 め	・ 「英語エキスパートクラス」生徒による海外とのオンライン交流 2 回以上。スピーチコンテストでの報告。 ・ 学校設定科目でのディベートを実施。他校との交流およびスピーチコンテストでの公開ディベートの実施。 ・ 探究発表会時に「英語エキスパートクラス」生徒による English Section でのポスターセッション参加。 ・ 対象者へのアンケートの実施。肯定的回答 90%以上。 ・ LL 教室施設・英語エキスパート教員・NET を活用し、希望者に英検リスニング・スピーキング講習。 ・ 1 月英検（校内実施）2 級受験者 2 年生 55%以上、1 年生 30%以上。 ・ 実用英語検定準 2 級以上合格者の割合 35%、内 合格者の 2 次 Speaking CEFR B1、A2 の割合 前年度より増加。